

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社funbox愛知工場	階数	地上3階
建設地	愛知県安城市稲庭町豊田15番、16番、17番、18番、19番、40番、110番、112番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	206人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2026年2月18日
敷地面積	7,064㎡	作成者	玉井 秀一
建築面積	2,580㎡	確認日	2026年2月18日
延床面積	7,039㎡	確認者	玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 49%

③上記+②以外の: 49%

④上記+: 49%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>4.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	4.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	4.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3-1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3-1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社funbox愛知工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数		
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境									3.0
1 音環境									2.6
1.1 室内騒音レベル					0.1	2.6	0.15	-	
1.2 遮音					3.0	3.0	0.40	3.0	
1 開口部遮音性能					0.4	3.0	0.40	-	
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.60	3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.40	3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	-	3.0	
1.3 吸音					-	3.0	0.20	3.0	
2 温熱環境					0.3	3.0	0.35	-	
2.1 室温制御					0.5	3.0	0.50	-	
1 室温					3.0	3.0	0.38	3.0	
2 外皮性能					3.0	3.0	0.25	3.0	
3 ゾーン別制御性					3.0	3.0	0.38	-	
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.20	3.0	
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.30	-	
3 光・視環境					0.2	3.0	0.25	-	
3.1 昼光利用					0.3	3.0	0.30	-	
1 昼光率					3.0	3.0	0.60	3.0	
2 方位別開口					-	-	-	3.0	
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40	3.0	
3.2 グレア対策					0.3	3.0	0.30	-	
1 昼光制御					5.0	3.0	1.00	3.0	
3.3 照度					3.0	3.0	0.15	3.0	
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25	3.0	
4 空気環境					0.2	3.5	0.25	-	
4.1 発生源対策					0.5	4.0	0.50	-	
1 化学汚染物質				内装材に使用する材料・塗料はF☆☆☆☆のものを使用する。	3.0	4.0	1.00	3.0	
4.2 換気					0.3	3.0	0.30	-	
1 換気量					3.0	3.0	0.33	3.0	
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.33	3.0	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.33	3.0	
4.3 運用管理					0.2	3.0	0.20	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	3.0	0.50	-	
2 喫煙の制御					3.0	3.0	0.50	-	
Q2 サービス性能					-	-	0.30	-	
1 機能性					0.4	2.6	0.40	-	
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	1.5	0.40	-	
1 広さ・収納性					3.0	1.0	0.50	3.0	
2 高度情報通信設備対応					3.0	2.0	0.50	3.0	
3 バリアフリー計画	独自				3.0	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				事務室の天井高3.0m以上となっており、かつ、窓がある。 食堂が計画されている。	0.3	3.3	0.30	-	
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	5.0	0.33	3.0	
2 リフレッシュスペース					3.0	4.0	0.33	-	
3 内装計画					3.0	1.0	0.33	-	
1.3 維持管理				評価する取組みが6つある。	0.3	3.5	0.30	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	4.0	0.50	-	
2 維持管理用機能の確保					-	3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性					0.3	2.7	0.31	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	2.6	0.33	-	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②				-	1.0	0.23	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用している。	-	4.0	0.15	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23	-	
2.4 信頼性					0.1	2.4	0.19	-	
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	2.0	0.20	-	
3 電気設備					3.0	1.0	0.20	-	
4 機械・配管支持方法	②				3.0	3.0	0.20	-	
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.20	-	

3 対応性・更新性				0.2	4.2	0.29	-	-	-	4.2	
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり			階高=4.0m以上		5.0	0.60		3.0	-		
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率=0.029	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			②	4500N/㎡以上としている。	3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性						3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22		-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38		-	-	1.7	
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30		-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		2.0	0.40		-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.6	
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.85	3.0	4.5	0.22		-	4.5	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.12		-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.16	3.0	5.0	0.46		-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-		
集合住宅の評価					-	-	-		-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	2.8	
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15		-	3.0	
1.1 節水					3.0	3.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63		-	2.7	
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.25		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-		3.0	0.21		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	3.0	4.0	0.25		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22		-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		-		
1 消火剤						-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50		-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-		
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.6	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率49%		5.0	0.33		-	5.0	
2 地域環境への配慮					0.3	2.9	0.33		-	2.9	
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない。		5.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制			独自	適切な量の駐車スペースと自転車置場を確保している。		4.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制						1.0	0.25		-		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-		
1 騒音			独自			3.0	1.00		-		
2 振動			独自			-	-		-		
3 悪臭						-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-		
1 風害の抑制						3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制						3.0	-		-		
3 日照障害の抑制						3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70		-		
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:4.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社funbox愛知工場

計画上の配慮事項	
総合	建物全体の熱負荷抑制、対応性・更新性に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	ゆとりある階高と荷重の設定により、対応性・更新性の配慮を行っている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部に緑地帯を設け、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	事務所棟の外壁に断熱性のある材料を採用している。 また、LED照明器具を採用している。
LR2 資源・マテリアル	事務室の床はフリーアクセスフロアとすることで、非再生性資源の使用量削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペース、バイク置場、自転車置場を確保している。
その他	